

知事コラム 佐竹敬久のさぁ、やるど!

知事 私腹を肥やす!?

知事という職務は正直いって大変な激務で、 平日は会議や来客、県の幅広い仕事の打ち合わせや方針決定、部下への指示、分刻みのスケジュールで土日・祝日も多くの公的行事が入りなかなか休めず、ない知恵を絞りながら有効な政策も考えなければなりません。

また多くのお客さんの相手や、国からの予算獲得や企業誘致で頭を下げることも仕事のひとつ、出張も多く、知事の仕事は体力・気力勝負という側面もあります。

そのようななかで、最近特に多くなった仕事のひとつに、私自らが売り込みを図るトップセールスというものがあります。

企業誘致や観光誘客などは代表的なものですが、農産物や加工食品、郷土料理の県外・海外へのPRや売り込みも、トップセールスが有効ということで、各県知事が激しい競争を展開しています。

そこで、頭の出来は疑問でも料理が趣味で人1倍胃腸が丈夫、とにかく何でも美味しい物は食べたいという自称「食人」と称する身としては、まずは自ら現物を食べなければPRも売り込みも出来ないという自分勝手な解釈で、県内各地で行われる食関係のイベントには我先に顔を出し、食いまくることになります。

さらには、今の知事は食に関心があるらしいということで、県内の農業・水産関係者や 市町村、団体、食品企業、コンビニなど様々な方が、地域の産物や新商品を知事に試食し てもらおうということで県庁に実物を持ってお出でになります。

幸い、昼飯を食べた後でも、2、3人前は腹に収まる体質、マスコミの皆さん注視のなかで「むしゃ、むしゃ」と平らげ、私の腹はパンパン状態、その様子をテレビや新聞で見た県民は「知事、えごど、いっつもうめものばがり1人で食って」ということになります。

ちなみに、昨年1年間に食イベント等への出席は11回、県庁内での試食会も11回、「何だ知事、食ってばしいるのが仕事が?」という方もいるかもしれません。

しかし、自分でいうのも何ですが、米や秋田牛などの海外輸出の成約も増え、東京の中 央卸売市場やデパートでの秋田の野菜・果物や加工食品の扱いも急激に増加しています。

加えて、実態は好きでやっていることですが、知事自ら熱心に秋田の食の売り込みに頑張っているようだということで、多くの農業者や食品製造業者、飲食関係の方々の間に、競って県外や海外に売り込もうという積極的な姿勢が見られるようになりました。

今や、食目当ての観光のウエイトが増し、秋田の農業や水産業も外に活路を見い出さなければならない時代、産業振興・雇用の面からも秋田の食の売り込みは重要課題です。

「なに知事、理屈こいで、自分ばり、うめもの食って」という声が聞こえて来そうですが、秋田のために、「まだまだ私腹肥やすど!」